

二宮町行政評価について（意見）

「第6次二宮町総合計画後期基本計画」に係る施策の進捗について、町の内部評価を踏まえ、二宮町政策評価委員会として評価を行いました。

6本の重点的方針について、概ね順調であると評価できます。特に、重点的方針1の「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」については、施策に含まれる事業の進捗状況を総合的に判断した結果、本委員会として「十分な成果があった」と評価しています。

一方、将来を見据えた公共施設の再編や地域づくり、目標に対しての適切な数値の把握及び効果検証の方法、KPIの設定に対する課題などが見受けられましたので、今後の行政評価に際し、本委員会の意見を参考に今後の行政運営を進めていただければと思います。各委員から様々な意見が出された中で、総論として、次の3点について、意見を述べさせていただきます。

1点目は、高齢化に伴う施設再編の推進や図書館についてさらに利便性を高めるための施策についてです。KPIに掲げる1地区1地域集会施設化の実現のためには、地区の統合を検討するなど、地域の在りかたを見直す必要があります。また、図書館をさらに身近に感じてもらうための工夫や他市町村との共同導入も含めた電子書籍の貸し出しなどの検討を含め、研究を進めてください。

2点目は、各事業の「効果測定」と「効果検証」についてです。具体的には、ことわらない相談窓口では、町民の安心につなげるよう相談に対する解決数を示すなど、適切に対応したと判断する具体的な根拠を示し、効果測定をする必要があります。

行政手続きのオンライン化では、目標値を大きく上回る実績のため、利便性は高められたと評価できます。一方、高齢者はデジタル関係の手続等に苦手意識を持つ方が多いため、町がデジタル化したサービスの高齢者における利用率などを把握したうえで、次の取り組みにつなげる必要があることから、適切に効果検証ができる数値の把握に努めてください。

3点目は、各施策におけるKPIについてです。施策の進捗を的確に把握するため、町の現状や特徴を踏まえたKPIの設定をするほか、町としてさらに発展した事業を展開するために効果的な測定ができるような数値とすることが必要です。このほか、単独の指標で測定することは難しい施策の進捗状況は、複数の指標を用いて測定できるよう工夫に努めてください。

最後に本意見書を基に、今後に向けた事業の改善について十分に検討することを望むとともに、持続可能で魅力あるまちづくりの推進に資することを期待します。